

黄河文明から生まれた 中国古代王朝、殷と周

黄河文明

黄河の中・下流域の肥沃な地帯に中国最古の農耕文明がおこる。2つの文化期に分かれる。

前5000年ごろ～前3000年ごろ

仰韶文化

竪穴式住居に住み、磨製(ませい)石器や彩色文様が特徴の土器、彩陶を使用。アワやキビを栽培し、犬や豚を飼育していた。

前2500年ごろ～前2000年ごろ

竜山文化

薄手の磨研土器、黒陶を使用し、牛、馬の飼育を行う。獣骨を使った占いをし、村落も拡大した。

● 主な遺跡



長江で始まった稲作
前5000年ごろ始まる。しかし水田開発には高度な技術が必要だったため、このころの原始的な道具では水稲をもとにした長江の文明の成立にはいたらなかった。

殷・周王朝

都市国家連合・殷の時代が続くが、前1100年ごろ西方の氏族に滅ぼされ、周王朝に変わる。

前1600年ごろ～前1100年ごろ

殷王朝

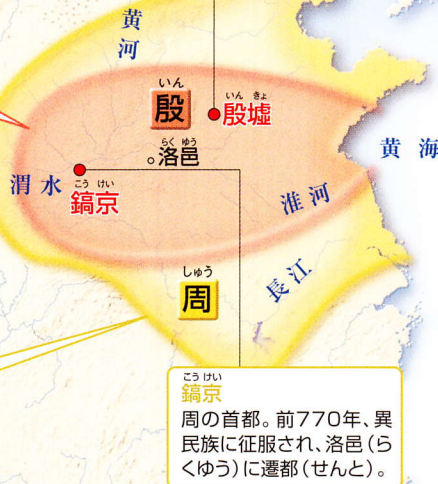
湯(とう)王が諸邑を統合。亀甲(きっこう)を用いた占いに基づく神権政治を行い、青銅器も製作された。

殷周革命

前1100年ごろ～前770年ごろ

周王朝(西周)

西方の氏族が殷を滅ぼして建てる。血縁関係による支配を特徴とする封建制が行われた。



殷墟
殷後期の遺跡。甲骨文字が刻まれた亀甲(きっこう)や獣骨、王墓からは殉死者や青銅器などが出土。

甲骨文字

殷代後期に使われた象形文字で、漢字の原型。



占いの結果が彫り込まれている獣骨。



肥沃な黄河流域で
文明が開花。やがて、
都市国家を統合し
王朝が誕生した。

大邑(都市国家)を統合して 殷王朝が誕生

中国大陸のうち、淮河の北は乾燥した気候で、季節風で運ばれる黄土が堆積する畑作に適した肥沃な地域、一方の南は、湿潤な気候で、稲作に向く地域である。華北を流れる雄大な黄河流域には、前5000年ごろに、雑穀を中心に農耕と牧畜をする人々が暮らし、黄河文明が生まれた。

黄河文明は、2つの文化期、仰韶文化と竜山文化に分けられ、小規模な共同体の邑から大邑(都市国家)へ発展した。

前1600年ごろ、商という大邑を中心とする連合体として、最初の王朝である殷(伝説上の夏を実在とする説もある)が誕生する。殷では、占いによって政治・軍事などの決定がなされ、その内容は甲骨文字で記録されている。また、青銅器の製作も始まり、精巧な祭器類が広範囲で出土している。

殷周革命により、 封建制の周に王朝が交代

前1100年ごろ、西方の渭水流域に興った氏族が殷を滅ぼし、鎬京を都とする周王朝(西周)を建てる。これを殷周革命という。周は、天帝の神意によって王権を得たと称し、その権威によって諸侯を従えた。周王は一族や有力氏族らを諸侯とし、各邑を封土として与えてその統治を任せる代わりに、納税や従軍を課した。また、諸侯は、それぞれ一族や功臣を卿・大夫・士と序列化した。王から士にいたる支配階級は、宗族という血縁集団を構成し、宗法という規範で結束した。こうした体制を封建制という。

Key Word

甲骨文字

亀甲(きっこう)や獣骨に刻まれた殷(いん)時代の象形文字で、現存最古の中国の文字。殷の王は亀甲や獣骨を火であぶったときに生じたひびで、政治や軍事、農業などの重要事項を占った。占いの結果は甲骨文字で、骨に刻んで記録された。甲骨文字が刻まれた亀甲や骨は殷墟(いんきょ)から多数発掘されており、漢字のもとになる文字が確認されている。